



雄と雌の対立が作り出す植物と花の多様な性

令和4年7月1日（金）

18:00～19:30

講演者：酒井 章子

（生態学研究センター・教授）

雄と雌はお互いがいなければ子を残せない、お互いに協力することを運命づけられた関係にありますが、その利害はいつも一致するとは限りません。このような雄と雌の間の利害の不一致は性的対立と呼ばれ、動物でさかんに研究されてきました。一方、多くの植物は雄の機能（雄しべ）と雌の機能（雌しべ）を兼ね備えた生殖器官「両性花」を持つ両性具有です（図1）。両性花では、性的対立は1つの花の中で起こりえます。両性花では、しばしば雄と雌が空間的（図1）、時間的（図2）に分かれています。これは少しでもその対立を解消しようとした結果だと考えられています。さらに、両性花に加えて雄花をつける（図3）、あるいは動物のように雌雄が別個体であるものも少なくありません（図4）。本講演では、植物個体と花の性表現の多様性から、雄と雌の不思議な関係について考えてみたいと思います。



図1. オオイヌノフグリは、雄しべと雌しべを持つ「両性花」をつける。雄しべと雌しべは空間的に離れている。



図2. リュウキュウウマノスズクサの両性花では、雌雄が時間的に分かれており、開花直後は雌で、その後雄になる。



図3. ソクサは、「両性花」（左）に加えて、雌しべのない「雄花」（右）をつける。



図4. アカメガシワには、雄しべしかない花を咲かせる雄株と雌しべしかない花をつける雌株がある。

京都大学丸の内セミナー 令和4年 開催予定一覧

開催回	日時	講演者 所属	講演タイトル	講演者
第118回	令和4年4月8日(金)	生存圏研究所	木材の経年変化：1000年を経た木材はどうなるのか	松尾 美幸 准教授
第119回	令和4年5月13日(金)	人と社会の未来研究院	わたしたちはどのように嘘をつくのか：不正行為を生み出す脳とこころ	阿部 修士 准教授
第120回	令和4年6月3日(金)	iPS細胞研究所	iPS細胞を用いた再生医療の現状と展望	長船 健二 教授
第121回	令和4年7月1日(金)	生態学研究センター	雄と雌の対立が作り出す植物と花の多様な性	酒井 章子 教授
第122回	令和4年8月5日(金)	フィールド科学教育研究センター	(未定)	(未定)
第123回	令和4年9月9日(金)	基礎物理学研究所	(未定)	(未定)
第124回	令和4年10月7日(金)	野生動物研究センター	知床の海棲哺乳類	三谷 曜子 教授
第125回	令和4年11月4日(金)	学術情報メディアセンター	(未定)	(未定)
第126回	令和4年12月2日(金)	数理解析研究所	(未定)	(未定)

※(未定)については、講演者、講演タイトルが確定次第、研究連携基盤HP(表面参照)にてお知らせいたします。お申込みは各開催日の約3か月前を予定しております。